

令和7年5月30日

中標津町議会議長 後 藤 一 男 様

中標津町議会議員 佐久間 ふみ子

## 研 修 報 告 書

以下の視察について、次のとおり報告します。

- 1 視察名 文教厚生常任委員会道外視察
- 2 視察先 香川県宇多津町 南部すくすくスクエア
- 3 視察日 令和7年5月13日（火）
- 4 視察事項 南部すくすくスクエアの取組・放課後児童支援・ファミリーサポートセンターについて
- 5 成果（具体的に）

宇多津町は、日本一面積の小さい香川県の中でも、面積が8.1㎢の一番小さな町で人口18,635人（令和6年4月現在）、県内で最も人口密度の高い町です。

瀬戸大橋架橋を機にした区画整理事業により、道路幅は広くきれいに整備されていて本町の道路状況との違いを感じました。

宇多津町は「子育てするなら 宇多津町」を掲げて様々な取組をされていますが、子育て支援施設にカフェ併設の多世代交流の拠点となる複合施設「南部すくすくスクエア」を視察してきました。

- ①未就学児童の遊び場と保護者の子育て支援・交流の場である「子育て支援センター」
- ②共働き家庭等の小学生の健全育成を図る「放課後児童クラブ」、中高生の自主学習の場として地域の人が利用できる「集会場」
- ③憩いの場として「カフェ」

を備えています。地域のボランティアさんの企画で星空観察会やボードゲーム大会、流しそうめん大会などが行われ、地域の子どもたちと高齢者の多世代がふれあい集える素晴らしい施設であると感じました。



挨拶をいただいた宮本議長と同席された水本副議長

また、①②③の事業は民間の事業所に委託し、貸館事業は町で運営しています。

当初、南部地区に子どもたちが遊べる公園をつくりたいと国や県の補助金・交付金を探すことに奔走し、地方創生拠点整備交付金や起債等を充当して子育て支援施設の建設計画と設置に向けて動き、町長の熱意に職員が懸命に応えご努力されたお話を伺い、何事もリーダーシップとチームワークの必要性を改めて感じました。



本町においても、子育て支援から高齢者の生きがいをづくりの世代間交流の場など、気楽に集える居場所づくり(複合施設)の開設を検討していきたいと思いました。

また、多世代交流施設を計画する際は「カフェ」を備えた新しい発想で魅力的な居場所となる施設づくりを目指してもらいたいと思います。

- 2 視察先 愛媛県四国中央市 子ども若者発達支援センター「palette」
- 3 視察日 令和7年5月13日(火)
- 4 視察事項 子ども若者発達支援センターについて
- 5 成果(具体的に)

子ども若者発達支援センターは、障がいの有無にかかわらず日常生活・社会生活を送る上で困難を有する子ども若者へ「相談」「療育」「地域支援」の一貫した総合的な支援を行っている運営状況について視察してきました。子ども若者の相談支援は0歳児から39歳まで応じています。



挨拶をいただいた脇センター長と加地係長

パレットが有している機能として

「相談」～来所・電話相談、訪問相談、心理療法、ケース会、5歳児相談

「検査」～発達検査、知能検査、感覚統合検査、その他の心理検査、ことばの検査

「療育」～児童発達支援(小集団療育・個別療育)、交流保育、放課後等ディサービス  
保育所等訪問支援

「地域支援」～個別支援計画、合同巡回相談、ひろば活動療育支援事業(ミニクラブ)

「連携」～四国中央市子ども若者支援ネットワーク会議、基幹相談支援事業、児童発達支

援連絡会、放課後等ディサービス事業所連絡会、四国中央市障がい児等福祉審議会「広報啓発」～広報誌、四国中央子育てフェスタ、ライトアップ  
「その他」～適応指導教室、こども支援室、医療機関アドバイス会、障がい児入所施設等  
「発達支援センター組織」～課長 1、センター長 1、総合相談係 7、発達支援係 5、児童発達支援センター10、東部子どもホーム 8、管理係 5

本町における障がい者施策の現状は、障がい者(児)アンケート調査(令和5年7月～8月実施)では「なんでも相談できる窓口をつくるなど相談支援体制の充実(45.8%)」が最も高く、「通院・治療のための医療費助成制度の充実」「在宅での生活や介助がしやすいよう保健・医療・福祉のサービスの充実」と続き、教育や療育については「進学、就労に向けた支援の充実(56.1%)」が最も高く、「友人との関係づくりへの配慮」「障がいに対応できる専門的な職員の配置／生徒、教職員の障がいへの理解や配慮」と続いています。

また、家族や保護者の悩み・心配ごととして「将来、自分が介助できなくなった時のことを不安に思う(51.1%)」「お子さんを強く叱責してしまったり、手をあげたりしてしまう」等、当事者の方やご家族のご意見・要望等は深刻に考えていく必要があると思います。

中標津町障がい者計画の基本理念である「かけがえのない一人ひとりが ころ豊かに暮らすまち」を目指す、相談支援体制の強化と関係機関のネットワーク体制の強化等、子ども若者発達支援制度の環境整備と「子ども若者発達支援センター」の構築に向けて推進してまいりたいと思います。



- 2 視察先 愛媛県四国中央市 四国中央市役所
- 3 視察日 令和7年5月14日(水)
- 4 視察事項 ICT教育について
- 5 成果(具体的に)

現在、本町はICT活用状況において、令和8年度GIGAスクール構想第2期に向けタブレット端末の更新を進めている状況です。今回、視察先の四国中央市教育委員会のGIGAスクール構想を強力に推進するための施策「GIGAしこちゅ〜プロジェクト」について視察研修してきました。

四国中央市のICT教育は「日本ICT教育アワード2年連続受賞」「教育DX推進自治体表彰2023受賞」「学校情報化先進地域」に認定されるなど、全国でも有数のICT教育先進自治体です。

令和3年2月に端末の配備が完了したことを受けて、機器の整備や児童・生徒の学力向上、教員のスキルアップを図るプロジェクト「GIGA しこちゅ〜」を立ち上げて政策的・組織的に推進するため、令和4年4月に「学校政策課」を教育委員会内に設置しました。IT企業や大学との連携も積極的に図り、プログラミング教室開催や、教職員のスキルアップ研修を実施しました。



また、文部科学省のICT活用教育アドバイザー事業を活用するなど、学校・教育委員会・行政が一体となり、大学や民間企業など産・官・学が連携して進めてきました。GIGAスクール構想の成功の鍵はこうした連携にあるということです。

また、家庭やフリースクールなどと連携し、ICTを活用した個別最適化された学習を提供するなど、公平公正な学びの取り組みも進めています。

不登校児童・生徒へのICT支援として

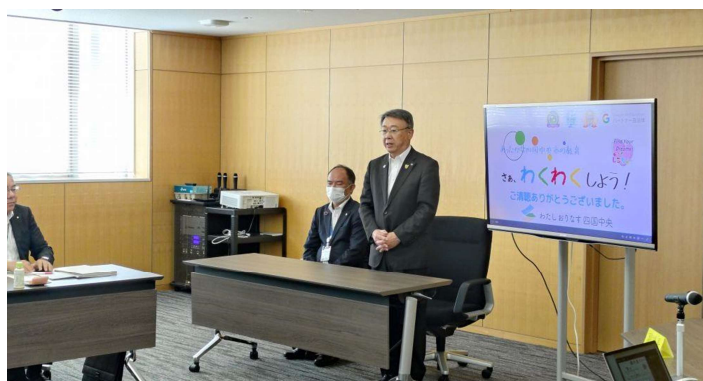
#### ◇教育支援センターのICT化

- ・1人1台端末の常設、Wi-Fiネットワークの整備
- ・AI型ドリルソフトの活用
- ・通室管理ファイルによる情報共有(Googleスプレッドシートで即時共有)
- ・ICTを活用した社会的自立の支援

#### ◇サポートルームの実証(愛媛県事業)

- ・メタバースの活用による支援など

四国中央市のICT教育は、すべての学校・すべての子どもたちに等しいICT環境を整えることを基本方針に掲げて、学校関係者、保護者、地域が一体となってICT教育を推進し、GIGA時代の学びを後押ししている。



最後には東教育長からも挨拶をいただきました

新しい時代の教育を全ての子どもたちに届けようとする思いと様々な取組を伺い、全てにおいて最先端のICT教育のレベルの高さをまざまざと感じました。

子どもたちが、自身のタブレットを使い自由に仲間と学び合っている様子をモニターで拝見し、いきいきと輝

く子どもたちの姿に深い感動と多くの刺激を受けました。

本町において、ICT環境の整備やICT教員研修の充実、ICT支援員の活用など、取り組むべき課題を一つ一つ整理しながら、子どもたちの可能性や主体的な学びの実現を目指しGIGAスクール構想第2期に向けて積極的に取り組んでまいりたいと思います。

- 2 視察先 香川県三豊市 バイオマス資源化センターみとよ
- 3 視察日 令和7年5月14日（水）
- 4 視察事項 バイオマス資源化センターみとよについて
- 5 成果（具体的に）

香川県三豊市の「日本初トンネルコンポスト方式」～ごみはすべて資源～のごみ処理施設を視察してきました。

三豊市は、平成18年1月に近隣7町が対等合併して新設されました。当時の三豊市長は「ごみは燃やさない！全て資源」との理念を掲げ、2010年～2011年にかけて焼却以外のごみ処理方式の公募を行い、その結果、日本初となるトンネルコンポスト方式（微生物などと混合して発酵槽の中で分解処理する）を採用しました。

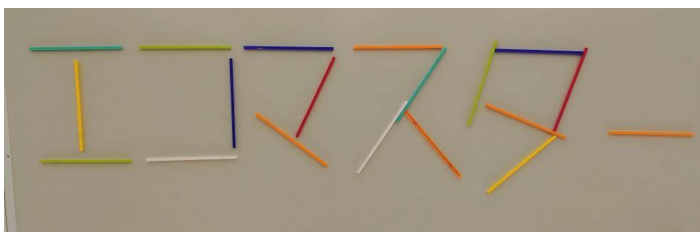


2017年から「バイオマス資源化センターみとよ」が一般廃棄物処理施設として稼働しました。この施設は（株）エコマスターがごみ処理施設として民設民営で新設しました。

視察では、施設内の一連の流れを見学させていただき、最初に驚いたのは、回収した可燃ごみ類（一般廃棄物）はなく、臭いもそんなに感じませんでした。途中、ごみが運ばれきて受け入れたごみをすぐにタイヤショベルが破砕機に投入、破砕した物はベルトコンベヤーで自動的に混合機に送られ、そこで一度発酵した物（微生物）と混ぜて、バイオトンネル（発酵槽）に投入。その中で17日間発酵・乾燥処理が行われるそうです。生ごみは分解され、紙・プラスチック類は乾燥します。その後三種選別機で異物を除いて残った紙、プラスチック、布などが固形燃料の原料として搬出されていくとのことでした。

また、施設の中は広く整然としてタイヤショベル1～2台が稼働して作業していました。他に作業している人は見当たらず、この施設はセンター長入れて全体を4人で運営していました。

今回の視察を通して、一般的なごみ焼却炉に比べて設備投資や運営コストを抑制できて、煙やダイオキシンなどが発生しない、環境に配慮した地球にやさしい画期的な処理方式を学び大変勉強になりました。



また、一般廃棄物処理をトンネルコンポスト方式にすることで、二酸化炭素排出を抑制する効果は、2021年実績で年間約10,172トンのCO<sub>2</sub>を削減されたということです。

- 2 視察先 兵庫県南あわじ市 松帆北認定こども園  
幼老複合型ういずディサービスセンター
- 3 視察日 令和7年5月15日（木）
- 4 視察事項 松帆北認定こども園（法人概要説明）  
ういずディサービスセンター（施設見学）
- 5 成果（具体的に）

始めに、社会福祉法人みかり会「幼保連携型認定こども園松帆北」にて、みかり会理事長谷村様から施設等の概要、教育・保育等の内容、施設の詳細等の説明を受け、その後移動し「幼老複合型ういずディサービスセンター」を視察してきました。



幼保連携型認定こども園松帆南の0歳児の子どもたちと高齢者の方が、昼間の時間一緒に過ごすことで世代間の交流が生まれ、互いに支え合う形で地域社会のつながりを深めることを目的としています。

ディサービスセンターは、施設というより少し大きめなお家という感じで、アットホームな雰囲気の中で、共に関わり、お年寄りが未満児の子どもを抱っこする様子も見られ、皆さんそれぞれ、ゆったりと過ごされていました。保育士さんの演奏に合わせて歌や手遊びを楽しみながら、5月お誕生日の方に花束と歌をプレゼントする場面もあって、ほのぼのと温かい時間を私たちも共有できて癒されました。

みかり会の介護理念「人として尊ばれ、共に生きる空間で心豊かにくらす」のもと、職員の方たちは皆さん笑顔でいきいきとされていて、普段からタブレットを片手に子どもたちの日常の瞬間を撮りためて、保護者の方たちとの連携・連絡に活用され、ICTの活用で業務の時間短縮など職員の働き方も効率よく取組まれていました。

また、これまで関わってきた子どもたちとお年寄りとの活動記録やエピソードのお話を聞き、胸が熱くなり大変感動しました。



施設の周りにはのどかな風景がありました

今回、道外視察最終日に「ういずディサービスセンター」を視察できたこと、職員の皆さんとの出会いに感謝と感動をいただき思い出に残る視察となりました。今後、視察で得たことを振り返り委員会の中で協議し、議会に反映していけるよう取り組んでまいりたいと思います。